

世界でも珍しい

北斗の水くみ

岡垣町の海岸では、ひしゃく状の北斗七星が、あたかも水平線の水をくんでいるような姿を見ることが出来ます。この光景は、北緯33度から34度に位置し、北に水平線がある場所で見えないそうです。その条件を満たすのは世界でも、北部九州の一部のみといわれています。観望におすすめの時期は9月から11月ごろです。

世界でも数少ない

「北斗の水くみ」観望ポイント

北の空を観察すると、星は北極星の周りを毎日、反時計回りにほぼ一回転します。北斗七星の動きを注意深く観察すると、秋の夜には北斗七星が北極星と水平線の間を西から東にくぐります。この姿がまるで天のひしゃくが水をくんでいるように見えることから「北斗の水くみ」といわれています。

岡垣町はこの貴重な現象を見ることが出来る数少ない観望ポイントです。この貴重な光景をより多くの人たちに見てもらおうと、2017年に「九州・山口星まつり in OKAGAKI」を催しました。当日は星や天文に関する講演会や催しのほか、夜には月と土星、北斗の水くみの観望会が行われました。



九州・山口星まつり in OKAGAKI

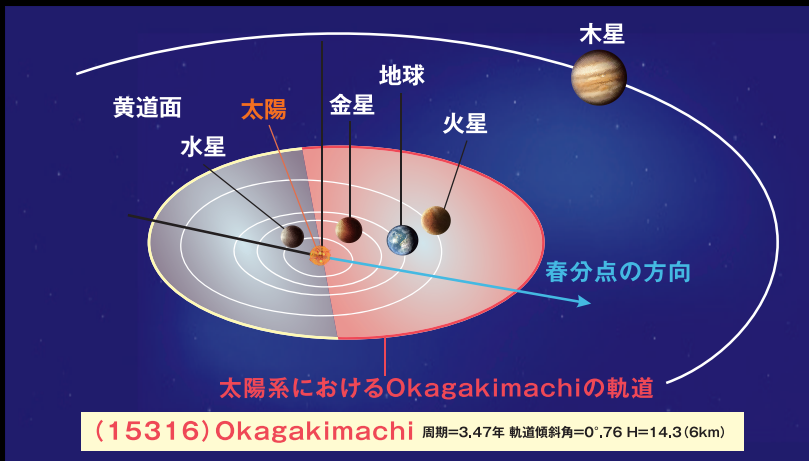
岡垣サンリーアイでの第1部ではシンポジウムなどが、波津海岸での第2部ではゴスペルのライブや「北斗の水くみ」の観望会が行われました。



岡垣町が星の名前に

1993年、渡辺和郎さん、円館金さんにより発見された小惑星で、直径は約6kmと推定されています。地球から約3億5,000万km彼方にあり、火星と木星の間の軌道で太陽の周囲をおよそ3.47年かけて一周しています。明るさは17等級で、残念ながら肉眼で見ることができませんが、「岡垣町」という名の星が、この宇宙に存在していることに大きなロマンを感じさせられます。

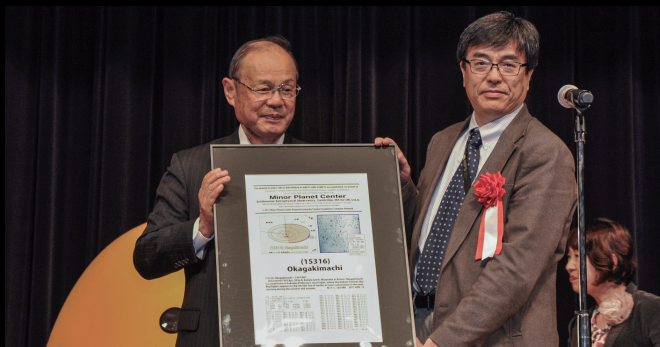
小惑星(15316) Okagakimachi



太陽系のはるか彼方に
「岡垣町」あり

2017年4月、岡垣町の町名が小惑星の名前として登録されたことが、国際天文学連合(IAU)の小惑星センター(MPC)の回報で国際的に報じられました。これは、九州北岸で見られる「北斗の水くみ」が天文家の間で話題になり注目されている中、北海道在住の天文家で小惑星発見者の渡辺和郎さんが岡垣町のことを知

り、小惑星(15316)に「Okagakimachi」と命名を申請し承認されたものです。星に町の名前が刻まれたことは、とても素晴らしいことです。今回の命名が子どもたちの夢や希望、宇宙科学・天文分野の活動につながりますように。



発見者の渡辺和郎さん(写真右)

九州・山口星まつりで行われた命名式典では、小惑星「Okagakimachi」の命名認定証が宮内町長に授与されました。